

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10. No.2 2008年1月31日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

NTTアイティとNECネクサスソリューションズ、Web会議サービスとマネージドVPNサービスを組み合わせたASPサービスを開始

NTTアイティ株式会社(横浜市中区)とNECネクサスソリューションズ株式会社(東京都港区)は、NECネクサスソリューションズが提供するマネージドVPNサービス「Clovernet(クローバネット)」に、NTTアイティのWeb会議サービス「MeetingPlaza(ミーティングプラザ)」を新たに取り入れ、インターネットVPN網で安価な定額制Web会議サービスを実現する「Clovernet MeetingPlaza ASPサービス」を1月18日より提供開始した。

Clovernet MeetingPlaza ASPサービスは、NECネクサスソリューションズのClovernetにNTTアイティのMeetingPlazaのサーバを設置し、セキュアなインターネットVPN網において定額制でWeb会議を提供するASPサービス。

既存のイントラネットを利用しているユーザはClovernetをWeb会議専用回線として1回線のみ契約するだけでサービスを利用することが可能。Clovernetのグローバルアドレスを持った専用サーバを準備し、顧客毎の設定をしたルータをレンタルで提供する。

このサービスを利用する場合、社内間のWeb会議による通信データは、Clovernet回線を経由する。そのため、イントラネット内のWeb会議サーバ相当のセキュアな環境と回線性能を提供するとともに、インターネット回線を経由するWeb会議の場合に生じる既存のファイアウォールへの負荷がかからない。さらに通信の暗号化には、IPsecの暗号化を使用。

またこのマネージドVPNサービスには、24時間365日の回線監視サービスも提供される。Clovernetカスタマーサポートセンタ(CCSC)が常時回線監視を行う。

NTT レゾナント、フルHDに対応したソフトウェア型テレビ会議システムを発売



WarpVision HD メインパネル - PC画面上に表示されるメニュー画面

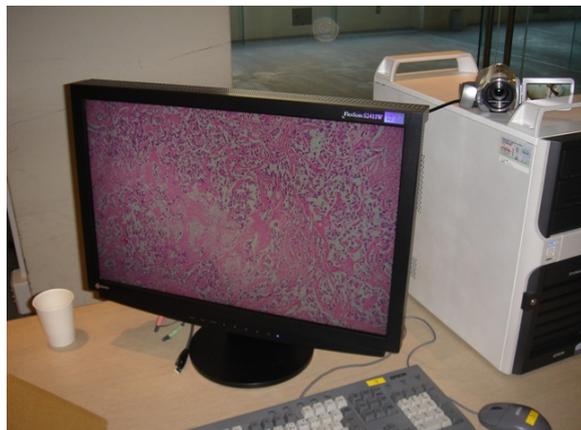
NTT レゾナント株式会社(東京都千代田区)は、フルHD(解像度1920x1080ピクセル)に対応した「WarpVision HD(ワーブビジョンHD)」を2008年1月から販売開始した。

WarpVisionは、NTTの研究所が開発したMPEG2リアルタイムソフトウェアコーデック技術を使用し、テレビ画像並み(VGA、解像度640x480ピクセル)の映像伝送を実現するテレビ会議サービス。最大8Mbps、30fpsでの映像表示が可能で、音声は、高音質MPEGオーディオLayerIIによるCD並みの音質。SI型(買取り型)の場合は最大128拠点まで同時接続が可能。資料共有機能は、SIではオプションとして提供している。NTTレゾナントとしては、今回HD版を追加することでWarpVisionのラインナップを強化する。

「WarpVisionは、既存の汎用のPCを採用し、テレビ画像並みの高品質でありながら、200msの低遅延を実現した高品質のソフトウェア型のテレビ会議システムだ。2003

年のリリース以来、今まで多数のユーザ様に導入されてきた。汎用の PC を採用したのは、お客様の既存のシステムや周辺機器と柔軟に組み合わせることでトータルコストを抑えることができるからだ。」(NTT レゾナント コミュニケーション 事業本部 サービス推進部 営業推進部門 担当課長 佐藤 晋一氏)

WarpVision の導入先としては、企業での会議用途以外では、金融機関における遠隔資産運用相談、住宅ローン相談、医療分野では、遠隔病理診断、その他遠隔からの相談業務や大学での講義等で活用されている。「例えば対面サービスなどに WarpVision を活用していただくために、必要に応じて受け付けシステムなどを組み合わせたソリューションも提供している。」(同 佐藤 晋一氏)



WarpVision HD を使ったテレパソロジー（遠隔病理診断）
遠隔から送信された医療データを全画面表示しているところ。

WarpVision HD は、遅延を少なくし映像品質が高い 30fps の映像を送るため、ソフトウェアによる H.264 コーデックを使用している。設定する画質、フレームレートにも左右されるが、10Mbps から 40Mbps の帯域を使用する。最高品質で動きの大きな場合には、60Mbps になることもある。

そのため NTT レゾナントとしては、WarpVision HD を SI 型（買取型）で提供する考え。専用回線での用途を想定する。発売当初は、ポイントツーポイントのみで提供する。

「ソフトウェア型での“フル HD”対応としては、業界初になると思う。時期的に HD 対応をどの時点で市場に投入するか社内的にも悩んだが、専用端末が HD 対応しつつある状況

や、同じように広帯域を使用するテレプレゼンスの登場などを考えると、HD 対応型のテレビ会議が本格化するのももう少し先としても、今が先行的に HD 対応を出す時期だと当社では考えた。」(同コミュニケーション事業本部 サービス推進部 プロダクト部門 担当部長 鈴木 啓文氏)

WarpVision HD のユーザインターフェイスは、従来版のユーザでも容易に HD 版に移行できるように、従来の WarpVision と同じ操作環境を採用している。但し、その場合新たに WarpVision HD の購入が必要となる。

その他では、暗号化通信、録音録画（オプション）、資料共有（オプション）などの機能を提供している。

外国語対応については、WarpVision HD は、現在日本語のみ対応だが、従来の WarpVision は、英語にも対応している。「英語以外の他の外国語については、カスタマイズで柔軟に対応ができる。」(同事業本部 同営業推進部門 村尾 成隆氏)

推奨 PC スペックは、Microsoft Windows XP と Windows Vista、CPU は、Intel Quad-Core Xeon プロセッサ 2Ghz、または、Intel Core2 Quad プロセッサ 2Ghz を推奨する。

今回の発表に併せて、CNA レポート・ジャパンでは、大阪の室外の景色を映した接続デモを拝見。Quad-Core CPU を 8 基 (4x2) マルチスレッド処理で WarpVision を稼働させていた。カメラは、ホーム用の市販の HD 対応ビデオカメラを PC に接続して使用。大阪から送られてくるそのフル HD の映像には、雪が吹雪く様子や並木の葉っぱの輪郭や色合いが細かいところまで良く見えていた。

予定価格は、ライセンス料（ポイントツーポイント）のみで約 300 万円からとなっている。

WarpVision は、NTT コミュニケーションズ株式会社、NTT スマートコネクト株式会社、NTT ビズリンク株式会社、日本テレマティーク株式会社、NTT ラーニングシステムズ株式会社、株式会社 NTT イフなどの NTT グループ会社で現在販売されている。

WebEx とソフトバンク BB、SaaS ビジネス分野で協業、日本初となる CRM と Web 会議の統合サービスを提供

ウェブエックス・コミュニケーション・ジャパン株式会社(東京都港区)とソフトバンク BB 株式会社(東京都港区)は、SaaS(Software as a Service:ソフトウェア・アズ・ア・サービス)分野で協業することを1月15日に発表した。

今回の協業によって、ソフトバンク BB は、Web 会議サービス「WebEx Meeting Center TEKI-PAKI エディション」並びに、WebEx と Salesforce の両製品の連携が可能な「WebEx Meeting Center TEKI-PAKI エディション for Salesforce」を同日よりサービス提供開始した。WebEx によると、今回の発表されたサービスは、Web 会議市場の裾野の拡大による新たなユーザ層へのアプローチを目的としている。

両サービスは、WebEx Meeting Center をベースにしたサービスだが、WebEx Meeting Center TEKI-PAKI エディション for Salesforce については、WebEx Meeting Center とセールスフォース・ドットCOMの CRM サービスである Salesforce の2つの SaaS サービスとの連携を可能としたサービスとなる。この連携したサービスは、日本では初めて提供されるもので、WebEx と Salesforce を統合したソリューションを単一のインターフェイス上でユーザが利用できるようになる。

ソフトバンク BB は、販売代理店契約をベースとしながらも、サービスの再販に留まらず、独自の SaaS ソリューションの開発から、提案、販売、そして導入支援とサポートまで広範囲に且つ緊密に提携する。

ウェブエックス・コミュニケーション・ジャパンは、米 WebEx Communications 社の日本法人。全世界で約60%以上のシェアを持つ。日本には、2002年進出。現在国内においては、1,000サイトがあり、富士キメラ総研「2007年 IP コミュニケーション/モバイル市場調査総覧」のレポートによると、2006年オンデマンド型 Web 会議サービス市場で国内1位となる28.7%のシェアを獲得した。

ジェネシスカンファレンシング、Web 会議サービス機能強化、日本語表示、オーディオ Q&A、dial ミーサービスなど

電話会議やWeb会議サービスを提供するフランス Genesys Conferencing 社の日本法人、ジェネシスカンファレンシング株式会社(東京都港区)は、同社の Web 会議サービスが日本語表示に対応など機能強化を発表。

同社が提供する Web 会議システム「Genesys Meeting Center(ジェネシス・ミーティング・センタ)」は、自社開発。以前のバージョンでは、たとえば Microsoft PowerPoint の日本語スライドは表示できなかったが、今回機能強化を行うことでそれが可能になった。また Web 会議室への入室やスライドの切り替えが「従来に比べシステムも大幅に安定し、資料共有の使用感も非常にスムーズになった。」(ジェネシスカンファレンシング 営業部 部長 岩波朱美氏)という。

一般的に、Web 会議システムを初めて使用する際は、プラグインをインストールすることが多い。しかし、同社のシステムでは、主催者のみ一度インストールするだけで、参加者はインストールする必要はない。基本的に指定された URL にアクセスしミーティング番号やパスワードを入力するだけで会議室に入れる。

同社の Web 会議サービスは、電話会議サービスと同期させて提供している。そのため、音声(電話会議)とデータ(Web 会議)の利用料金を一本化した「マルチメディア料金」で提供している。通常、料金は電話会議、Web会議と別々に設定していることが多いが、それであるとコストがわかりづらいというユーザの声があるためだ。同社ではマルチメディア料金でサービスを提供している。「他社に比べ、マルチメディア料金はわかりやすい料金体系だ。コスト的にもお得感があるとご理解頂いている。」(同 岩波氏)

Genesys Meeting Center は、他社にない独自の機能も提供する。ひとつは、「オーディオ Q&A」と呼ばれる機能。Web 会議での会議中に参加者が質問をする場合、その“挙手”を誰が一番始めに行ったかアイコンで分かる仕組み

みを提供している。つまり、主催者用の Web 会議画面に参加者一覧が表示されるわけだが、その参加者の誰かが質問がある場合、挙手をした参加者を“手”のアイコンで表す。その中で一番先に挙手した手が黄色で表示され、2番以降の参加者の手のアイコンは、茶色で表示される。そして、最初の質問者の質問が終わると、次は2番目の質問者が黄色表示になる。この参加者が行う挙手は、参加者の電話機の「*」を押すことで行うことができる。

「質問者が多数いる場合その質問者の順番がわかるのは便利だ。多人数の会議はもとより Web 会議を使ったオンラインセミナーなどでおすすめている機能だ。」(同 岩波氏)

また参加者を簡単に呼び出す機能「Dial ミーサービス」も同社サービスのユーザでは好評だという。Dial ミーサービスは、主催者用の Web 会議画面から呼び出したい参加者の電話番号を入力して、クリックすると自動でその電話番号を呼び出す。「電話機で相手を呼び出すよりも、簡単な入力操作で多数の参加者を短時間に呼び出すことができるのが特長だ。」(同 岩波氏)

Genesys Conferencing は、1986 年設立。多地点会議サービスをグローバルに提供している。日本を含め 21 カ国に事業所を持つ。パリ Euronext に 1996 年上場、米 NASDAQ 市場には 2001 年上場。日本法人ジェネシスカンファレンシングは、2003 年 12 月設立。今年 1 月、この Genesys Meeting Center が、INTERNET TELEPHONY Magazine's 10th Annual Product of the Year Award(インターネットテレフォニー誌(www.itmag.com))のプロダクト・オブ・ザ・イヤー賞を受賞。

(関連記事: Vol.8 No.20 2006 年 7 月 20 日号)

プリンストンテクノロジー、Polycom RPX HD デモンストレーション・ルームをアジア圏のポリコム代理店として初めて開設

プリンストンテクノロジー株式会社(東京都千代田区)は、ポリコム社の最高グレードとなるビジュアル・コミュニケーション・ソリューション「Polycom RealPresence Experience High Definition(ポリコム・リアルプレゼンス・エクスペリエンス・ハイ・デフィニション、RPX HD)のデモンストレーション・ルームを、アジア圏のポリコム代理店として初めて開設した(2007 年 11 月下旬現在)。



プリンストンテクノロジー東京本社に設置されている Polycom RPX HD

同時に、プリンストンテクノロジーでは、Polycom RPX HD イマーシブテレプレゼンスソリューションの国内販売を本格的に開始。プリンストンテクノロジーは、認定代理店の中ではもっともランクの高い Platinum(プラチナ)代理店。認定代理店には、Platinum、Gold、Certified と 3 ランクあり、Platinum(プラチナ)代理店とは、ポリコム製品のマーケティングから販売、サポートまで一貫したサービスについて包括的な提供力があるとポリコムから認定されているランクを意味する。「当社は、2004 年、2005 年、2006 年、そして、2007 年と国内ポリコム代理店としては初めての 4 年連続でベスト・リセラー (No.1) 賞をポリコム社から受賞している。ポリコム製品については、ビデオ会議から音声会議まで日本国内における多数の実績がある。」(プリンストンテクノロジー)

Polycom RPX HD シリーズは、2 画面、もしくは、4 画面の大型ディスプレイをシームレスに設置した大型シネマビジョン型スクリーンを採用し、相手側拠点の映像を非常に高精細かつ等身大に表示することが可能なシステム。それに加え、視線を合わせた自然な会話を実現するポリコム社独自の技術「Polycom EyeContact(ポリコム・アイコンタクト)」や、聞き取りやすく、音声だけで話者の位置を認識できるほど臨場感溢れるステレオ音声の他、天井、照明、会議テーブル、椅子、ウォールパネルなど、RPX HD ルームを構成する全てを人間工学に基づいて設計している。「高品質な映像や音声、そしてその会議を行う空間を人間工学の観点から一体的に構成することで臨場感溢れる、そして、あたかも“同じ部屋で会話をしている”と錯覚してしまうほどのリアルなコミュニケーションを実現している。まさしく究極のビジュアルコミュニケーションシステムである。」(プリンストンテクノロジー)

Polycom RPX HD シリーズは、ディスプレイの画面数や RPX HD ルームの利用者数、利用目的に応じて、全9種類のモデルがあり、それぞれの価格はオープンとなっている。販売にあたっては、Polycom RPX HD の専門トレーニングを受け、認定試験合格者を一定数保有し、さらにデモ設備を有する認定販売代理店のみが販売できることになっており、プリンストンテクノロジーは、日本のみならず、アジアでも初めてその認定を受けた代理店という。

今回プリンストンテクノロジーが自社内に設置した Polycom RPX HD デモンストレーション・ルームは、最大 8 名がテレプレゼンス会議に参加可能な 4 画面モデルの「Polycom RPX HD 408M」。ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)が開設した Polycom RPX HD デモンストレーション・ルームと接続して RPX HD の臨場感溢れるコミュニケーションを体感できる。

「北米では、役員会議室をテレプレゼンスで結んだ事例の他、手術室と遠隔の医師をテレプレゼンスで接続し、遠隔の医師から執刀中の手術室の医師へアドバイスをする事例、さらに、大学キャンパス間をテレプレゼンスで接続した授業など多数の事例がある。日本でも今後テレプレゼンスシステ

ムへの需要は高まると期待している。ポリコム社とは今後も強い協力関係を維持して、テレプレゼンスを含め同社製品の販売強化を図っていく考えだ。」(プリンストンテクノロジー)

1 月 30 日から 2 月 1 日まで東京ビックサイトで開催される日経BP社主催 IT Pro Expo 2008 に出展。1 月 31 日にはポリコムジャパン 代表取締役 奥田 智巳氏の講演や同日午前竹中平蔵氏の講演をポリコム社 Polycom HDX9004 および HDX8002 を使用して、展示会場へ中継予定。IT Pro Expo 2008 の詳細は、<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/index.html>。

ポリコムジャパン、昨年 11 月 2 回目のプライベートセミナーを実施: エンドツーエンド HD 対応ビデオ会議ソリューションと信頼性をサポートする接続検証センタをアピール

ポリコムジャパン株式会社(東京都港区)は、2007 年 11 月 20 日午後東京都内にて「ポリコム最新 HD ソリューションセミナー ～リアルタイムとストリーミングで活用広がる HD ビデオコラボレーション～」セミナーを開催(140 席満席)した。



ポリコムの今後の展開を語る奥田氏

今回のセミナーでは、ポリコムジャパン 代表取締役 奥田智巳氏や担当者が来場者の前でプレゼンテーションや実機の実演などを行い、今後ポリコムが力を入れていく製品を紹介。

HDX 4000/8000/9000 シリーズ共通のソフトウェアバージョン 2.0 のポイント、新製品「HDX 4000」と「HDX 8000」、そしてテレプレゼンスソリューションの「RPX HD」、多地点接続サーバ「RMX 2000」、会議レコーディングサーバ「RSS 2000」の概要や、会場とポリコムジャパンにある接続検証センタと HD ビデオ会議接続を行い、接続検証センタの紹介も行われた。

接続検証センタは、ポリコムの製品のシステム安定性、システム拡張性、他メーカー機種との安定運用の他、障害発生の際の迅速な対応と回復を行うことを目的に、約 1 年前に設置。VSX シリーズや HDX シリーズが約 350 台(その内 HDX シリーズは、80 台)と複数の多地点接続サーバが現在フル稼働している。今回ポリコムジャパンが接続検証センタを紹介したのは、ひとつにポリコムがシステムの信頼性に対して相当なコミットをしているということを理解して頂く一環として行ったと思われる。

ソフトウェアバージョン 2.0 については、多地点機能や QoS の強化、また IPv6 対応等について言及。多地点機能については、6Mbps から 8Mbps をサポートすることで、8 拠点の多画面分割表示 (CP) が可能になった。8 拠点というのは、つまり、多地点機能を持った端末 (親機) 1 台に対して他の端末 (子機) 7 台が接続する形。

QoS としては、ロストパケットリカバリー機能 (LPR) も今回新たに実装された機能。パケット通信を行う不安定な IP ネットワーク上でのビデオ会議において必要とされる機能。通常数パーセントのパケットロスでも映像や音声 that 乱れる現象が起こるところ、この LPR を使用することで 5% や 10% の状況でも比較的安定したビデオ会議が行えるという。

今回発表された「HDX 8000」、「HDX 4000」を紹介。デモンストレーションでは、背面の各種端子へのケーブル接続を会場の来場者に見せて、セットアップの簡単さを披露。HDX 8000 シリーズは、HDX 9000 と同じくインテグレーションに優れているが、「背面の接続端子のインターフェイスについては、HDX 9000 に比べ 1 個ずつ端子が少ない形に仕様されている。」(ポリコムジャパン) 価格は、173 万円 (税抜き) から

288 万円程度。HDX 9000 と HDX 8000 などの組み合わせの導入がお奨めだという。

HDX 4000 シリーズについては、20 インチのモニタ、そしてカメラ、マイク、スピーカを内蔵したオールインワンタイプのデスクトップビデオ会議システム。ひとつの特徴は、リモコンがなく固定されたキーパッドがあるということ。キーパッドは文字説明ではなく、絵で分かりやすく表示。「絵であれば万国共通でわかりやすい。」(ポリコムジャパン) またモニタ内蔵のため PC モニタとしても使用できる。HD モデルは、HDX 4002 が対応。価格は、125 万円 (税抜き) から 188 万円程度。



会場でデモンストレーションを行っている様子

次に、ポリコムジャパンが特に力を入れているテレプレゼンスシステム Polycom RPX HD をビデオで紹介。イマーシブ (その環境にいるかのごとく感じる没入感) なテレプレゼンス環境を人間工学からの観点も含め開発された部屋まで含めたシステム。4~28 人用。カスタマイズも可能。「部屋の中に部屋を作る感じだがモジュール化されているため事務所移転などの場合でも容易にセットアップができる。使用感としては技術を気にせず、会議に集中できるのがこのテレプレゼンスの特長だ。」(ポリコムジャパン)

使用画面は他社のテレプレゼンスシステムが使用しているプラズマディスプレイではなく、リアプロジェクトを使用したシネマテックスクリーンを使用。プラズマディスプレイだと黒い枠があるが、このスクリーンのタイプだと枠がないためより自然に相手を表示できる。若干スクリーンは暗め

ではあるが、輝度を下げることで参加者の目への負担などを軽減する考慮をしている。

スクリーンは 2 枚タイプか 4 枚タイプ(コーデックは HDX 9000 シリーズを使用。スクリーン数に同じ数のコーデックを使用。)になるが、映像コミュニケーションで重要なアイコンタクトにも工夫をしている。カメラはスクリーン中央に埋め込まれているため「自然なアイコンタクトが可能。」(ポリコムジャパン)と自信を見せる。

マイクはシーリング・マイクを使用。「天井からつり下がっているため、テーブルにあるマイクと違い、マイクを気にしなくても良い。」(ポリコムジャパン)

テーブルには、2 人に一台のモニタを用意。データ共有などに使用する。このモニタはオフライン(テレプレゼンスをしていないとき)でも使用できる。また、RPX HD 操作には、タッチパネルのシステムを用意している。

壁面には音響ウォールパネルを使用し音の反響を効果的に吸収する仕組みを提供しており、会議室のライティングは参加者への照射角度などを考慮している。

RPX HD は、オプションで VNOC サービスを提供する。VNOC は、24 時間 365 日対応のカスタマーサポート。会議はタッチパネルを操作することで開始することができるが、VNOC を通して予約をしておけば、参加者は会議室に入ってくるだけで会議を始めることもできるという。

Polycom RPX の後には、今年発売になった Advanced TCA に準拠した HD 対応多地点接続サーバ「RMX 2000」を紹介。RMX 2000 の紹介の中では、「Advanced Click & View(アドバンスド・クリック&ビュー)」を説明。自動レイアウトを 23 種類から選べ、16 拠点を同時に表示が可能という。また、ロストパケットリカバリー機能(LPR)のデモンストレーションを行い、パケットロスが 4~5%の環境での性能を披露。LPR が OFF になっていると映像が乱れるが、ON になっているとパケットロスを感じさせない映像の安定性を見せていた。

RMX 2000 の次には、ライブストリーミングやオンディマンドのストリーミングを可能とする「RSS 2000」を紹介。このシステムがあるとビデオ会議をストリームアウトして PC などへ映

像と音声を配信することができる。HDにも対応している。

セミナーは2時間程度であったが、ポリコムジャパンが今何をもっともユーザに訴求したいのかよくわかる内容の構成だった。今回のセミナーでは、昨年より本格化してきたHDを主眼においており、ポリコムが提供する各製品がエンドツーエンドでHDに対応してきたということと、接続検証センタを充実化することで信頼性の高いサービスを今後も提供していきたいということをアピールした内容だった。

最後まで退席する参加者は見られず、終始プレゼンテーションや実機の実演などに高い関心を見せていた。1年前も同じところでセミナーを開催したが、その時には、HDX 9000 シリーズの発表がメインだった。その後 HD 化の実装も進み、テレプレゼンスも発表されたため、ちょうどよいタイミングで行われた感じだ。今回も昨年と同様満席だったため、「来年以降も同じように開催していきたい。」と次回に対しても積極的な意向を示した。

セミナー・展示会情報

ITpro EXPO 2008

日時:1月30日-2月1日

会場:東京ビックサイト

主催:株式会社日経BP

詳細・申込:<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/index.html>

ITpro EXPO 2008 IP コミュニケーション テーマセッション: TANDBERG 最新ソリューションが可能にする“リアル高画質の多地点接続!”

日時:1月31日(木)12:00~12:45

会場:東京ビックサイト

講演:三菱電機システムサービス株式会社/日本タンバーク株式会社

主催:株式会社日経BP(ITpro EXPO 2008)

詳細・申込:

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/forum/view.html?c=TJ1>

ITpro EXPO 2008 IP コミュニケーション テーマセッション：導入が本格化する HD ビデオ会議ソリューションの実力とそのユニークな活用方法

日時：1月31日(木)13:00～13:45

会場：東京ビックサイト

講演：ポリコムジャパン株式会社／株式会社プリンストンテクノロジー

主催：株式会社日経BP (ITpro EXPO 2008)

詳細・申込：

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/forum/view.html?c=TJ2>

大塚商会 実践ソリューションフェア 2008：
今や、テレビ会議を導入しない理由がなくなった！
効果的な導入ポイントと利用促進を徹底解剖！

日時：2月6日(水)10:20～11:20

(東京、セミナー番号 A31)

2月13日(水)10:40～11:40

(大阪、セミナー V セミナー番号 A51)

2月20日(水)10:00～11:00

(名古屋、セミナー会場 3、セミナー番号 A31)

主催：株式会社大塚商会

詳細・申込：<http://event.otsuka-shokai.co.jp/jsf/>

「これからのビデオ会議はこうなる」セミナー
～いつでも・どこでもコミュニケーションの実現～

日時：2月7日(木)13:30～17:00(受付開始：13:00)

会場：NEC ブロードバンドソリューションセンター ホール
(品川イーストワンタワー 7F)

主催：NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局

協賛：日本タンバーク株式会社

詳細・申込：

<http://www.nec.co.jp/univerge/seminar/partner080207/index.html>

Web 会議はオフィスで本当に役に立つ！？賢い企業はこう使う！！

～Web 会議 画期的活用術ご紹介セミナー～

日時：2月7日(木)15:00～17:00

会場：キヤノンソフト情報システム 東京支社

主催：キヤノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込：

<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1049>

"音の良さ・話しやすさ"を追求した音声会議システムセミナー～高音質技術が実現する高品位なコミュニケーション～

日時：2月14日(木)13:30～17:00(受付開始：13:00)

会場：NEC ブロードバンドソリューションセンター ホール
(品川イーストワンタワー 7F)

主催：NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局

協賛：住商情報システム株式会社

詳細・申込：

<http://www.nec.co.jp/univerge/seminar/partner080214/index.html>

無料 Web セミナー [eラーニング特集 第3弾]
WebEx を使おう！基礎の基礎！
～まずはここからスタートしましょう eラーニングも Web ミーティングも～

日時：2月21日(木)14:00～15:00

会場：インターネット上の会場(オンライン)

主催：ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込：

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_022108.html?SourceId=hpg

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

先日1月24日、「Web 会議を活かし切る」セミナー(主催：NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局、協賛：エイネット株式会社)で講演をさせて頂きました。

この定期レポートのご購読者の方もご参加されたようでご挨拶を頂きました。

他の方でもご参加された方いらっしゃいましたらこの場にてお礼申し上げます。有り難うございました。

今度は、2月7日ですが、「これからのビデオ会議はこうなる」セミナー(主催：NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局、協賛：日本タンバーク株式会社)で講演をさせて頂く予定です。宜しければご参加いただければ幸いです。

代表 橋本啓介